

# 倉吉総合看護専門学校 学校自己評価

## ●学校評価の必要性

平成 23 年 3 月 29 日付で「看護師等養成所の運営に関する指導要領」の一部改正が行われ、「第 8 管理及び維持経営に関する事項」において『養成所は、教育活動その他の養成所の運営状況について、自ら評価を行い、その結果を公表すること』と明記されました。当校では平成 24 年度から学校自己評価に取り組んでいます。

## ●実施計画

当校における学校自己評価は、「授業評価」と「学校運営評価」に大別します。

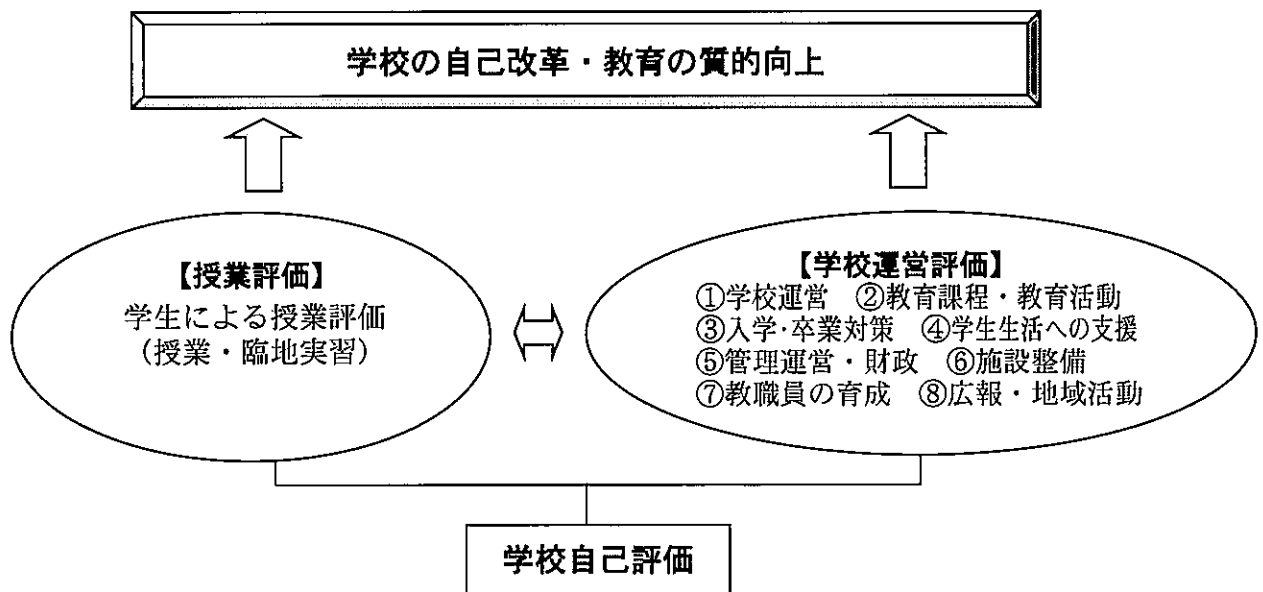
### ◆「授業評価 (学科毎)」

授業評価は、学生からのアンケート結果と教員の自己評価を基に、授業の進め方、教材の改善策等を検討し、教育の質的向上に活かします。

### ◆「学校運営評価」

学校運営評価は、学校経営、教育課程・教育活動、入学・卒業対策、学生生活への支援、管理運営・財政等の項目を設定し、教職員等が評価を行い、学校運営委員会において検討し、学校運営の改善・改革を目指します。

## 1 当校における学校評価の枠組み



## 2 組織構成

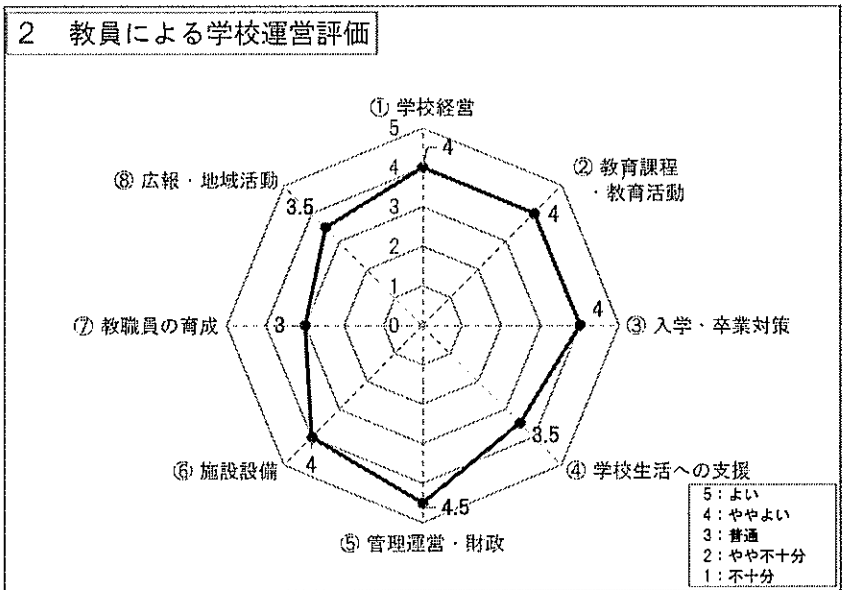
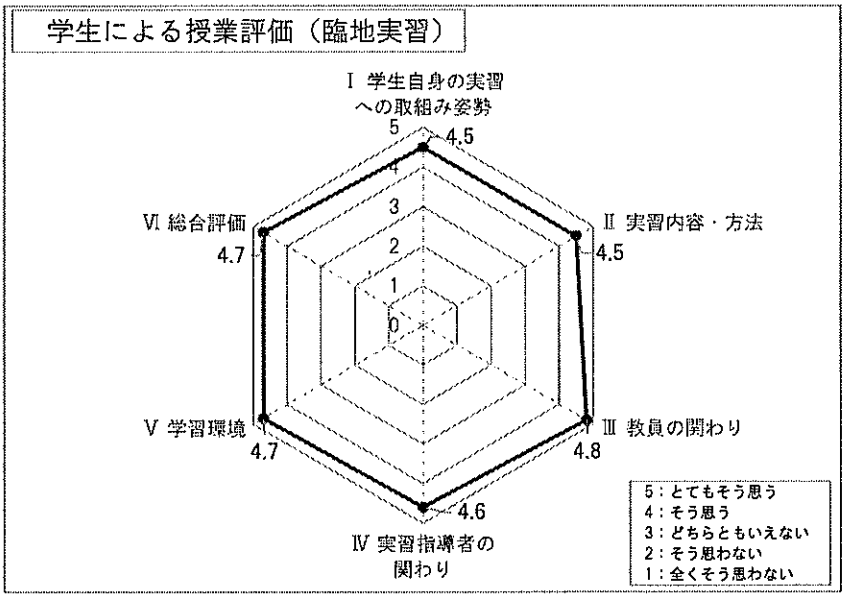
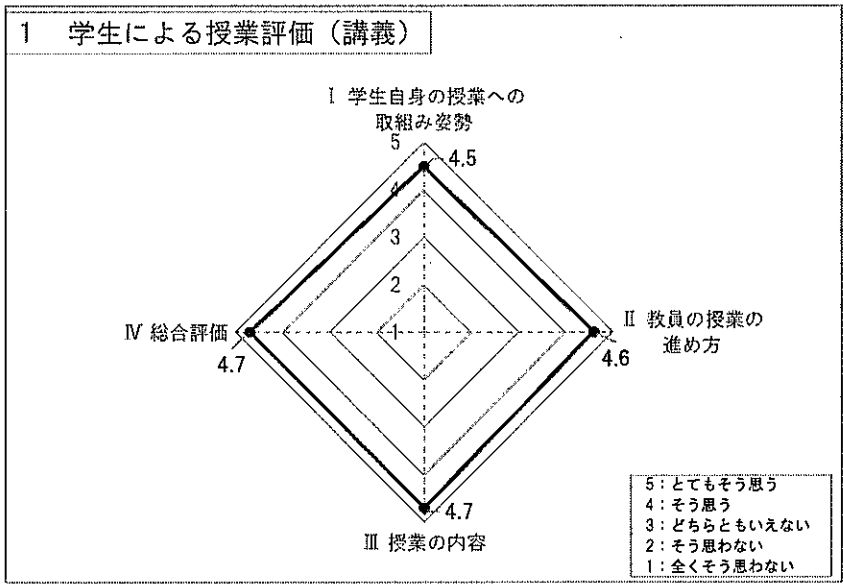
学校自己評価委員会を設置し、学校運営や教育活動等の状況について、自己点検・自己評価を行い、学校運営委員会に改善事項などの意見を提出します。

構成員：校長、副校長、教務課長、総務課長、教務主幹、教務主任、講師、事務職員  
その他校長が必要と認めた者

## 3 結果の公表

授業評価及び学校評価の実施結果を当校ホームページで公表します。

# 令和5年度 学校自己評価結果



## 学校運営評価概要

| 項目<br>平均得点(5点満点)  | 概 要   | 評価委員会での改善の<br>提案及び今後の課題   |
|-------------------|---|---|
| ①学校経営<br>4.0      | <p>○新型コロナウイルス感染症は5類への移行となったが、保護者に対しても感染症対策への協力を依頼し、学生及び教職員が学校内外や寮において感染症予防対策に取り組み、各学年が進級・卒業できた。</p> <p>○教務主任会・職員会・クラスミーティング等定期的に行い、運営上の検討及び共通認識の場とし、学校運営及び効果的なクラス運営に役立てた。</p> <p>○学生による授業評価や教員による学校自己評価を実施した。また、学校関係者評価委員会を開催し、今後の課題等の意見交換を行った。</p> <p>○教員確保が難しい。適所の人材配置のためには継続して人員確保が課題である。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防対策を講じたがらの学校運営は評価できる。</li> <li>・教員確保が難しい現状について、現場の看護師不足も関係しているのであれば県全体での取り組みが必要か。</li> </ul>   |
| ②教育課程・教育活動<br>4.0 | <p>○令和4年度から第1看護学科と助産学科、令和5年度から第2看護学科が新カリキュラムの運用を開始し、看護学科は新カリリと旧カリリが混在する中、滞りなく実施した。新カリキュラムは、教育理念、教育目標と科目との整合性を図り、地域性を踏まえた教育内容とした。年度末には学生にアンケート調査を実施し、その結果や教員へのアンケート（教務会での協議含）を基に、新カリキュラムの評価・再検討を行い次年度に繋げた。また、令和6年度には新カリキュラムでの実習が開始となるため、実習施設の選択・調整や学習内容・実施方法などを検討した。</p> <p>○臨床場面に近い演習の工夫や、指導者と連携して実践能力の強化を図った。</p> <p>○実習受け入れの中止の施設が生じた際は、実習施設を変更して学生の受け入れ調整、実習内容及び時期の変更などを行い、実習到達目標の達成と実習単位修得に繋げた。助産学科は、学生の学習機会確保のため、令和2年から中止していた東部での実習を再開した。第1看護学科は昨年に引き続き新規実習施設を開拓し、実習施設変更承認申請書を提出し承認された。</p>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムの評価・再検討を継続し、更なる教育の充実を図る。</li> <li>・実習におけるコロナ禍の影響は依然として継続している現状において、実践能力は現場で身につくことが多いことを踏まえると、継続して学び続ける力を学生の内から育成していくことが必要か。</li> </ul>                   |
| ③入学・卒業対策<br>4.0   | <p>○コロナ禍により中止・オンライン開催としていたオープンキャンパスを、対面で行った。77名の参加があり、アンケート結果は概ねよい結果であった。</p> <p>○県内の高等学校32校及び看護師・准看護師養成施設7校に学校訪問を行い、志願状況の確認と入試案内、本校のPR等を行った。</p> <p>○推薦入試において第2看護学科の推薦要件を拡充した。また「入学選抜試験に関する規程」の合格判定基準を見直し、推薦・社会人入試からの学生確保に努めた。</p> <p>○様々な措置を講じたが、第1看護学科、第2看護学科とも志願者は激減。さらに合格者からの辞退もあり、定員割れである。</p> <p>○国家試験の合格率は、第2看護学科、助産学科は100%であったが、第1看護学科は1名不合格で96.5%（全国平均87.8%）であった。</p> <p>○県内出身者の県内就職率は87.5%であった。県内就職ガイダンスへの参加奨励や当該年度求人案内と就職募集要項一覧を作成し、学生が常時閲覧できる図書室に設置した。また、就職情報や卒業生からのメッセージなどの掲示を工夫した。既卒者の相談（就業や看護研究など）には随時対応している。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスの対面開催は、学校の雰囲気などを知ってもらうよい機会になった。</li> <li>・生徒数（高校卒業）の減少に加え大学志向の昨今、倉庫の魅力のさらなる発信（今年度は、インスタグラムの開設や広報誌への掲載などすでに取組んでいる）を引き続き検討する。経済的支援も含めた宣伝も必要か。</li> </ul> |
| ④学生生活への支援<br>3.5  | <p>○学生の定期面談の結果を教員間で情報共有した。また、必要時スクールカウンセラーに繋げて支援の方法を助言してもらう等の対応(学習の仕方についての支援が増加)を行った。タイムリーな支援のためカウンセラーと連携を図り対応した（相談学生数、総時間は前年度の2倍）。</p> <p>○修学支援新制度の機関要件を県に申請し、令和5年度更新が認められた。授業料減免と給付型の奨学金を活用できた。</p> <p>○進学・就職支援では、外部講師による接遇研修及び学内講師による小論文の添削指導や面接指導等を行った。最高学年だけではなく、第1看護学科2年生に対しては、領域別実習前にビジネスマナー研修を行った。学生からの反応はよかった。</p> <p>○学生サークル活動に対して、担当教員の配置や後援会からの活動費を助成する体制などがある。</p> <p>○コロナ禍で中止していた学校祭を、学生の意向を踏まえ3年ぶりに校外の施設を借用して行った。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーとの連携が図られており、その支援が学習の継続（中途退学者減少含）に繋がっていること等も学校PRとする。</li> <li>・接遇やビジネスマナー、ジョブカードによる自己理解及びキャリアプラン等の研修は魅力的であり、継続してほしい。</li> </ul>                        |

|                          |  |  |
|--------------------------|--|--|
| <p>⑤管理運営・財政<br/>4. 5</p> | <p>○予算の事業執行については、毎月の執行額を確認し年次計画に基づき計画的に執行できた。</p> <p>○個人情報保護方針、個人情報保護取り扱い規定は学生便覧に掲載している。また、実習前には指針や規定の内容を再確認する時間を設け、学生は個人情報保護に関する誓約書に署名している。</p> <p>○学生の個人情報（個人ノートや成績一覧等）のファイルは、教務室内の鍵付きキャビネットに保管管理している。また、実習記録は鍵付きロッカー（鍵は教務室で管理）に保管している。</p> <p>○感染症対応マニュアルなど各種マニュアルは見直しをしている。</p> <p>○防災訓練の際、重要書類の持ち出しが困難なことが判明したため防火保管庫を購入予定とした。</p> <p>○学生の通学時の事故事例が多いことを受けて、交通安全の講話を倉吉警察署に依頼し、全校生徒及び教職員が受講した。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報や感染症対策は関して適切な運用ができており評価できる。</li> <li>・個人情報保護に対しての意識（感性）は学生の内から教育していく必要がある。</li> <li>・防火保管庫の購入や事故事例に対して、瞬時に対応できており評価できる。今後も継続してほしい。</li> </ul>  |
| <p>⑥施設設備<br/>4. 0</p>    | <p>○体育館入口と実習棟入口に車椅子利用者用スロープを設置した。また、本館3階第2演習室の扉を交換し、学生の怪我のリスクがなくなった。</p> <p>○教育目標達成に必要な教材、看護師・助産師養成所の運営に関するガイドラインに示されている機械器具、模型等は整備（使用頻度が多い模型は破損が生じるため定期的に点検し修理や補填、基金の活用による購入）を行った。基金を活用しCPS実習ユニット1セット、分娩介助モデルを2体購入した。</p> <p>○令和6年度の第1看護学科1年生から電子教科書を使用するため、講師用ipadを購入した。また4月の授業開始までにWi-Fi環境を整えた。</p> <p>○年間4回の図書整備を実施（学生と共に）し、令和5年度の不明図書1冊であった（前年度は6冊）。不明図書を含め学生の利用頻度の高い書籍を中心に次年度の予算要求を行い、更新した。</p> <p>○栄養実習室に学生が安価で購入できる自動販売機を設置している。麦茶や水など売り切れになる頻度が高い商品の販売個数を増やしてもらった。栄養実習室の学生利用については、コロナ禍で制限（昼食摂取など）していたが状況を見ながら拡大した。設置していた電子レンジもリニューアルし、学生にも好評であった。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の修繕、教材備品の購入が計画的に行われており評価できる。</li> <li>・教科書の電子書籍化は時代に合っている。それに伴いWi-Fi環境も整えたり、また栄養実習室を整備したりと学生が学校生活を有意義に過ごす上で、随時環境を整えていることも評価できる。</li> </ul>   |
| <p>⑦教職員の育成<br/>3. 0</p>  | <p>○オンラインセミナーにすべての教員が参加し、復命を提出し回覧にて共有した。また、県の委託事業である看護教育の質向上研修に新人教員2名がwebで参加し、他校の状況など把握する機会となった。</p> <p>○教員が個々で参加した学会や研修は11回（前年度6回）であり、参加した学会・研修会の復命を回覧し情報共有は行ったが、伝達講習はできていない。</p> <p>○専任教員のキャリア別達成目標は教員の手引きに提示している。</p> <p>○計画的な学内授業の参観日や授業研究に参加及び評価できるような仕組みはない。演習など複数の教員が入る授業については、教務会などで内容や方法など検討し、演習終了後には振り返りを行っている。振り返りの際の意見（助言）を基に、自身の教授活動を見直すことに繋がっている。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の参加による研鑽を引き続き積む。伝達講習については、方法の検討など実施に向けた対策も必要か。</li> <li>・多忙な業務の中にもモチベーションが上がるような工夫も必要。</li> <li>・評価点が低いが、項目の見直しも必要か。</li> </ul>   |
| <p>⑧広報・地域活動<br/>3. 5</p> | <p>○ホームページは、受験生が求める情報を適時掲載するとともに、利用しやすいようにレイアウトを変更した。また、変更するにあたってはパソコンよりもスマートフォンなどからの閲覧者が多い傾向にあることを考慮した。学生専用のページは設けていないが同窓会のホームページを開設した。さらに、Instagram開設等今どきの若者への情報発信について検討した。</p> <p>○学校のポロシャツを作成（学生に図案を募集し投票により決定）し、学生及び教職員が実習等で着用した。指導者からも好評で、PRにも繋がっている。</p> <p>○新型コロナウイルス5類移行に伴い、ボランティア活動や地域貢献などの積極的な参加による学校PRへの取り組みを検討した。また、学校広報として、学校名の入ったクリアファイルを作成し、オープンキャンパスや進路ガイダンスの参加者に配布した。令和5年度は、依頼のあったボランティア（湯梨浜町社会福祉協議会）に学生2名が参加した。</p> <p>○主たる実習施設の院内実習指導者研修と鳥取県看護職員実習指導者養成講習会への講師派遣は、実習指導者育成に、実習施設への看護研究支援は実習施設の看護の質の向上にも貢献できた。</p> <p>○倉吉市のファミリーサポートセンター提供会員養成講座の講師派遣、助産学生による、地域（倉吉市と北栄町）で子育て中の母親や妊婦とその家族を対象とした健康教育の実施など、地域貢献活動にも繋がった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページについて、県の制約もあると思うが看護学校へ入りにくい。また、地味な印象は否めない。</li> <li>・Instagram開設はよい取り組みである。イベントや授業の様子等多くの情報発信を期待したい。</li> <li>・ボランティアや実習を通じての学校PRも行っており評価できる。学生と教員が一丸となって、更なる広報活動の充実を図る。</li> </ul> |

※評価項目の点数は、5よよい 4ややよい 3普通 2やや不十分 1不十分 の総数を項目数で除した点数